

## 平成30年 第8回教育委員会会議

### 1 日 時

平成30年6月21日（木）

開会 10時00分

閉会 10時22分

### 2 場 所

教育委員会室

### 3 出席者

田中新太郎教育長、金田清委員、横山真紀委員、眞鍋知子委員、西川恒明委員  
新家久司委員

### 4 説明のため出席した職員

新屋長二郎教育参事、藤村一志教育次長、升屋和夫教育次長、堀田葉子教育次長、  
近岡守教育次長兼保健体育課長、岡崎裕介庶務課長、杉中達夫教職員課長、  
塩田憲司学校指導課長、篠原恵美子生涯学習課長、田村彰英文化財課長

### 5 議案件名及び採決の結果

議案第16号 石川県社会教育委員の委嘱について（原案可決）

議案第17号 石川県立図書館協議会委員の委嘱（任命）について（原案可決）

### 6 報告案件

報告第1号 平成31年度石川県公立学校教員採用候補者選考試験等の志願状況  
について

報告第2号 日本遺産の追加認定について

### 7 審議の概要

#### ・開会宣告

田中教育長が開会を告げる。

#### ・会議の公開・非公開の決定

議案第16号及び議案第17号は人事に関する案件のため、地方教育行政の組織  
及び運営に関する法律第14条第7項に基づき非公開とすることを、全会一致で  
決定。

#### ・質疑要旨

以下のとおり。

## 報告第 1 号 平成 31 年度石川県公立学校教員採用候補者選考試験等の志願状況について（杉中教職員課長説明）

「平成 31 年度石川県公立学校教員採用候補者選考試験等の志願状況について」、ご説明いたします。本試験につきましては、去る 5 月 10 日から出願の受付を開始し、5 月 31 日に締め切りました。志願状況について、6 月 18 日にホームページで公表しましたので、その概要を報告させていただきます。

お手元の資料 6 ページをご覧ください。まず、1 の教諭等の志願状況についてであります。採用見込数の合計は、前年度と同じ 315 人として、前回の会議で報告したところではありますが、これに対して志願者総数は、1333 人で、前年度より 93 人少なくなっており、全体の倍率は、前年度より 0.3 ポイント低い 4.2 倍となりました。

受験区分別の状況でございますが、小学校教諭につきましては、昨年より 10 人少ない 140 人の採用見込のところ、442 人の志願があり、倍率は 3.2 倍で、昨年より 0.2 ポイント低くなっております。

中・高等学校教諭につきましては、昨年より 20 人少ない 130 人の採用見込のところ、710 人の志願があり、倍率は 5.5 倍で、昨年より 0.1 ポイント高くなっております。

今回から新たに別枠で設けた、特別支援学校教諭につきましては、小学部、中・高等部合わせて 30 人の採用見込のところ、77 人の志願があり、倍率は 2.6 倍であります。

このほか、資料には記載してございませんが、併願制を活用しまして、小学校教諭又は中・高等学校教諭に出願しながら、特別支援学校教諭を第 2 志望とする志願者は 44 人おりました、これを合わせると、志願者数は 121 人となりますので、倍率は 4.0 倍となるということになります。

養護教諭につきましては、昨年と同じ 15 人の採用見込のところ、昨年より 10 人増の 104 人の志願があり、倍率は 6.9 倍で 0.6 ポイント高くなっております。

以上のとおり、前年度と比べ志願者が 93 人減少しましたが、志願者を来年 3 月に大学や大学院を卒業する新卒者と、既に大学等を卒業した既卒者に分けて前年度と比較いたしましたところ、新卒者が 39 人の減、既卒者が 54 人の減となっております。既卒者が減少していることは、採用試験で選考漏れとなった場合に、翌年の試験を目指すことなく他の職に就く傾向が見られるということがあります。

また、志願者を出身学部別に前年度と比較したところ、教員養成系学部出身者は 14 人の減少に対しまして、教員養成系以外の学部出身者が 79 人減少しております。景気が好調で売り手市場の中、教員養成系以外の学部出身者を中心に、民間企業等に流れたのではないかと考えております。

一方で、今年度の志願者全体に占める特別支援学校教諭の免許保有者は、特別支援学校教諭の受験区分以外に出願した者も合わせて 143 人おりました、志願者総数が減少している中で、昨年より 37 人の増加となるということから、特別支援学校教諭区分を新たに設けたこと、また併願制を導入したことにつきましては、受験者のニーズに対応し、一定の成果があったのではないかとというふうに考えております。

来年度以降の志願者数確保につきましては、秋と春に実施している大学訪問で、教員になる意欲の高い学生に対する説明会を継続して実施していくとともに、引き続き、大学生だけでなく講師や社会人も対象とした採用説明会を実施していくほか、「ILAC」を通じた情報発信についても、継続して行っていきたいと考えております。

次に、2の栄養教諭につきましては、任用替え見込数5人程度に対し、志願者数が7人ということで、倍率は1.4倍となっております。なお、試験は、7月21、22日の両日に筆記試験及び実技試験を、また8月4日または5日に面接試験を行うこととしております。以上でございます。

(田中教育長)

他県も皆少し、右肩下がりの傾向はやはり同じです。

【質疑】

(金田委員)

小学校教員が減ってきているというのは、地元の大学の教員養成の枠というか、パイがかつてよりだいぶ減ってきているのでしょうか。かつての金大教育学部と言われるような、教員養成というところの学生数は、今はだいぶ減っているのですか。

(杉中教職員課長)

以前の教育学部に比べて、今の学校教育学類になりましてから、定員が100名というふうに大きく減っているという現状があります。また、まだ大学出身別の志願者数の動向については、現在まだ志願者段階ですので調べておりませんが、また今年度の受験者等も細かな分析等をしていって、大学別にどのような状況になっているかは調べていきたいと思っています。

(田中教育長)

金大が変更したのは直近ではなく結構たっているのですが、それ以後の傾向でもあり、全国的にもあるのですが、その中で心配なのはまた文科省の教育養成学部の大学ごとの統廃合、見直しみたいな話も出ているので、ますます全国的に養成系の学部が縮小されるということになると心配だなと、私も思います。

(金田委員)

東京の発想だから。地元とか地方がどうなっているかということも文科省は視点に入れながら、やっていただかないと、地方の大学が疲弊してしまう。

(田中教育長)

若干心配なのは、今後も生徒が減るのだから、先生はどんどん要らなくなるのだから、減らす方向でいいという短絡な話で、定数改善でやる気がないのかなと思ってしまいます。

(金田委員)

短絡的な考え方で大学を見てもらうと、地方は困ってくるということですね。

(田中教育長)

石川県の場合は金大とはいろいろな意味で、学力もいろいろな面で研修の面でもいろいろ協力しているので、そういった面ではさらに金大と連携しながら、お手伝いすると

ころはし、お手伝いしていただくところはしていただくという形で連携してやっていきたいと思っています。

## 報告第2号 日本遺産の追加認定について（田村文化財課長説明）

それでは報告第2号、「日本遺産の追加認定」について、資料7ページをご覧ください。

昨年、加賀市を含む全国7市4町が申請しました「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間 ～北前船寄港地・船主集落～」が日本遺産に認定されておりますが、去る5月24日、本県の輪島市、小松市を含む全国25市2町が追加認定されました。

1の「日本遺産について」ですが、日本遺産の概要であり、記載のとおりでございます。

2の「北前船寄港地・船主集落」の概要についてであります。ストーリーの内容としましては、日本海や瀬戸内海沿岸には、山を風景の一部に取り込む港町が点々と見られ、そこには港に通じる小路が随所に走り、通りには広大な商家や豪壮な船主の屋敷が建っており、社寺には奉納された船の絵馬や模型が残り、京など遠方に起源がある祭礼が行われ、節回しの似た民謡が唄われています。

これらの港町は、荒波を越え、動く総合商社として巨万の富を生み、各地に繁栄をもたらしました北前船の寄港地・船主集落で、時を重ねて彩られた異空間として、今も人々を惹きつけてやまないという内容でございます。3の「認定自治体」ですが、昨年は、本県の加賀市を含め、日本海沿岸の7市4町でありましたが、今年度は、記載のとおり、本県の輪島市、小松市を含め、新たに瀬戸内海沿岸の市町も含めまして、全国25市2町が追加認定されました。

構成文化財としては、輪島市について、国選定の重伝建である黒島地区伝統的建造物群保存地区、重要文化財である旧角海家（かどみけ）住宅など8件でございます。

小松市につきましては、国登録文化財であります、北前船主の離れでありました、長沖の金剛など9件でございます。

8ページには、昨年と今回認定された市町村の位置図、9ページから12ページには、輪島市と小松市の構成文化財、その位置地図、主な構成文化財の写真を資料として添付しておりますので、ご参照いただければと思います。

県といたしましては、今後とも関係部局と連携し、認定を受けた市町や、新たに認定を受けようとする市町の取り組みに対しまして、引き続き、指導・助言など、必要な支援を行ってまいりたいと考えております。以上です。

（田中教育長）

この申請というのは、関係の市町が協議会を作って、その協議会に参加した自治体の中でいろいろ調整をして申請をしています。申請するにはまずその協議会にまず参加をするというのが前提条件になっているようでして、その協議会と文化庁がいろいろ事前に調整したり協議をしながら、認定作業を進めているという実態だそうです。

今回、輪島市と小松市が新たに協議会に加盟しまして、中の調整を踏まえて、申請に加わって認められたという経過でございます。

輪島市、小松市とももう既にいろいろな活動が始まっています。また、いろいろなPR活動とか、シンポジウムみたいなものも協議会として活動しているようなので、そんな形でぜひ加賀市、輪島市、小松市の協議会の中でいろいろな意味で活動もしていただいて、アピールをしていただければいいと思いますし、自分のところの市として、資産の

磨き上げというか、活用の工夫もしていただければいいなど、そんな意味で県教委としても指導、助言を一生懸命していきたいと思っているところでもあります。

【質疑】

(金田委員)

いいことです。長沖の金剛の部屋が入ったのが、これも地域のね。

子どもは、そういう歴史を知ることが大事だから、やはりアイデンティティを伝えていかなければいけない、大事なことだと思います。

(田中教育長)

大阪から、北海道まで、北前船のルートが明らかになりますから。どこへ寄って商売していたのかというような。

(金田委員)

だから市教委、町教委は、まさに自分たちの教材というか、こういうものを通して日本全体のイメージ、あるいはロシアとの交渉史とか、ヨーロッパ全体を見ていくとか、そういう一安宅家にとどまらず、一角海家にとどまらず、やはり全体をこの教材を通して教えていくような市教委、町教委、あるいは先生であってほしいです。非常にいい教材だと思います。

(田中教育長)

今後さらにこれが追加認定になるのかどうか今分かりませんが、取りあえず協議会は二次募集したような感じなのです。そしたら25市2町が追加になりました。来年またどんどん追加していくかどうかは不透明なようです。挙げるところは早く手を挙げてくれということで、ここまで来たようです。

(西川委員)

8ページに地図が載っていますが、これはどこか公開の予定があるのですか。

(田村文化財課長)

これは、申請の際の資料を私どもの資料に付けさせてもらったものですが、もう出ていると思います。

(西川委員)

出てしまっていますか。ちょっと、輪島市の位置が。

(田中教育長)

大ざっぱですね。

(西川委員)

宇出津か穴水か。

(田中教育長)

それを言うと多分他にもあるのではないですか。

(横山委員)

小松市も安宅よりに若干なっていますね。

(田中教育長)

これはこちらで作ったのではなくて、多分協議会で作ったかと思います。

(田村文化財課長)

国へ出した資料はそのままです。

(田中教育長)

協議会が多分国へ出した資料そのままだと思います。

(横山委員)

高岡市も伏木寄りに、どちらかという和海沿いになっている感じなのですが。

(金田委員)

ちょっと、富山、高岡はこれでいいのかなと思いつつながら。

(西川委員)

輪島がここにあって、何で七尾に寄らないんだと。

(金田委員)

七尾は来ているんでしょうね、恐らく。彼らは自由に動かして。

(西川委員)

ただ距離的にかなり伸びますから。輪島が一番便利だと思います。

(金田委員)

伏木高岡まで来ているのなら。

(田中教育長)

多分これは他にもあるのだと思うのですが、やはりある程度まとまった文化財が残っているかどうか。面的に残っているかどうかです。一つだけあるというのだとなかなかつらいので。それと今後ちゃんと保存、活用、観光 PR も含めて、やる気があるかどうかという話や、かつ文化財の所有者がちゃんと保存活用に前向きかどうかという、そんなことをいろいろ各市町は多分調整されながらやっているのだと思います。

多分北前船の寄港地はもっとあるのだと思うのです。石川県でも金石も含めてまだありますから。

(金田委員)

美川もそうだし、町野も。いいことではないですか。

(田中教育長)

厚みが増えるということで、いろいろ PR のネタが増えるということでもあります。

(田中教育長)

以降の審議は非公開となるため、傍聴人の退席を促す。



議案第 16 号 石川県社会教育委員の委嘱について

篠原生涯学習課長が説明し、採決の結果、全会一致で原案のとおり可決された。

議案第 17 号 石川県立図書館協議会委員の委嘱（任命）について

篠原生涯学習課長が説明し、採決の結果、全会一致で原案のとおり可決された。

- ・ 閉会宣言

田中教育長が閉会を告げる。